

日産財団月報 2016年10月度

今月は10月23日～27日の日程で、「逆風下の変革リーダーシップ養成講座」を実施しました。このプログラムは、昨今のような変化が激しく逆風が吹きすさぶ環境下でも折れず挫けず、組織の変革を主導していくリーダーの育成を目指しています。5日間の講座では、日産をはじめ複数企業の復活や変革ケースが論議されます。受講者はその中で自身のリーダーシップ論を練り、志賀さんゴーンさんとの直接対話を通して検証し、自社での適用イメージを作っていきます。

今回のアカデミックパートナーは、欧州のエクゼクティブ向けトップビジネススクールのIMDでした。受講者は金融、流通、素材、自動車、輸送、ソフトウェア等の業界から29名が集い、よく工夫されたIMD流プログラムで大いに論議して、リーダーへの行動指針を見出し持ち帰りました。また、受講者アンケートの5日間平均値は5点満点で驚異の4.85、過去最高となりました。



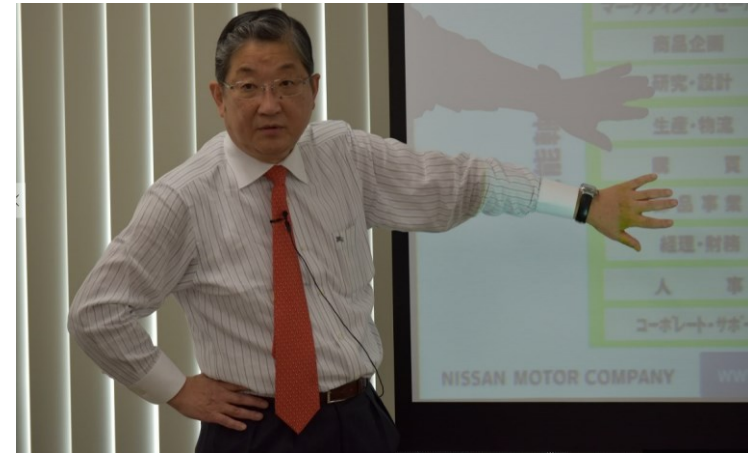
《グローバルリーダーシップを講義するマーサ教授》

サンマイクロシステムズのケースを用いて、組織をリードするには「信頼 Trust」「熱意 Ambition」「団結力 Cohesion」「知識 Knowledge」が必要と説き、それを可能にするリーダーのコンピテンシーを紐解いていく。



《受講生の質問に歯切れ良く回答するゴーンCEO》

「リバイバルプランでは何を変え、何を変えなかったのですか？」との質問に、「驚くかもしれないが、私は変化が嫌いなのです。系列も年功序列も、私は何も変えていない。ただ、変えなければならないものだけを、例えば系列の中で問題がある会社関係や、年功序列の中で差別された優秀な若手の処遇だけを変えたのです」



《変革を支えるレジリエント*組織を語る志賀副会長》

かつて日産の組織は縦割りの「サイロ」のようなものでしたが、今はCFT(Cross Functional Team)が提案したマトリックス組織です。何かをするときには必ず関係する部署との間に「健全な摩擦」が起こり、それが正しい合意形成につながっていくのです。

レジリエント(Resilient): 強靱で困難を跳ね返す性質、このリーダーシップ講座のキーワードとなっている